２０２４年５月１日 【清真学園 校長室だより】

「読書する人だけがたどり着ける場所」

この３月から４月にかけて、本校の生徒達が市内の書店に推薦本の展示企画を行うという試みが大きな注目を集めました。手作りの PR ポップが加えられていることもセールスポイントの一つです。新聞やテレビに繰り返し取り上げられ、その反響の大きさには少々驚かされました。

５年ほど前の調査で、「読書時間ゼロ」の大学生が過半数を超えたという結果が大きな話題になったことがありました。中高生を含め、学生が本を読まなくなったという事実が社会の中で広く共有されている中で、興味のある本に正面から向き合うという今回の取り組みが多くの人に新鮮さと好感をもって受け止められたことが、大きな反響につながった理由の一つなのかも知れません。

さて、本校には、図書館の近くの片隅に置かれた小さなガラスケースの中に、「私の本箱」というコーナーが設けてあります。これは、本校の職員が順番に自分の読書遍歴の中で印象深かった本を５冊程度、本の実物とともに紹介するという企画です。これが実に興味深く、大袈裟ではなく、一人ひとりの先生方の人生の一端に触れたような気になるのは私だけではないと思います。その人がどんな本を読んできたのかは、すなわち、どんな人生を送ってきたかに他ならないとさえ感じます。

今回の校長室だよりのタイトルは、ベストセラー著者として有名な、明治大学文学部の齋藤孝教授の著書の一冊から引用させていただきました。先生はこれまでも折にふれ、読書の楽しみや効用について言及されてきています。本書の前書きから一部引用させていただきます。

「いつの時代も読書は素晴らしいものです。思考力を伸ばし、想像力を豊かにし、苦しいときも前進する力をくれる。自己を形成し、人生を豊かにするのに欠かせないのが読書です。」

私自身、これまでの長い人生を、常に信頼する本ともに歩んできたという実感があります。本によって救われた経験も一度や二度ではありません。清真生も、読書と共に豊かな人生を歩んで欲しいと、心から願わずにはいられません。